

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 東濃高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和7年12月9日（火） 13:30～15:30
- 3 開催場所 東濃高等学校 図書室
会議開催前、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

	副会長	佐口清道	会社役員
	委員	奥村恒也	御嵩町教育長
		各務眞弓	NPO法人可児市国際交流協会 理事・事務局長
		田中静子	地域代表
		山口健	保険代理店
		矢島幹也	一般社団法人 たらす 代表理事
		山田泰平	東海化成工業(株)業務部人事総務課長
		梅内望	P T A副会長
		遠藤弘美	P T A副会長
学校側		二村文敏	校長
		野田幹也	事務長
		松久潤	教頭
		土本繁	教頭
		佐合ゆかり	教務主任
		前田知美	生徒指導主事
- 5 会議の概要（協議事項）
 - (1) 学校評価アンケートについて
 - ・概要説明及び学校の様子（教頭より）
 - ・領域ごとの分析（アドバンス部【教務・進路指導】、生徒支援部）

意見1：回答数が多くなると精度が高まるため、特に保護者について、昨年と比べて回答数が増えたことは、大いに評価できる。

質問1：「スクールミッション」や「スクールポリシー」については、生徒や保護者に対して、どのような場面でどのように周知しているのか。

⇒「スクールミッション」や「スクールポリシー」について、ホームページに掲載したり、広報のなかで伝達をしているが、周知という点では難しさを感じている。引き続き、様々な機会をとらえて、浸透させていくことに尽力したい。加えて周知方法については、さまざまな意見を聞きながら検討したい。

質問2：学校評価アンケートについて、Forms と用紙での回答の比率はどれくらいか。

⇒割合については、Forms での回答 70%、用紙での回答 30%程度である。なお、回答については Forms での回答を促すとともに、保護者懇談の待ち時間等を利用して回答をお願いするとともに、回答期限を延長したことも奏功した。

質問3：「ネット環境がよくない」とのことだが、状況を詳しく知りたい。

⇒アンケートの実施に際して、Forms を活用しているが、一学年が同時にアクセスすると繋がらないというくらいの状況である。朝トレでネットに繋げることができるが効果的だが、現在の状況では難しいかもしれない。

(2) 意見交流

- 意見 1 : 生徒の笑顔が見られ、楽しく授業参観をさせていただいた。休み時間に生徒が進路指導室への入退室の様子を見かけたが、とてもマナーがよかった。
- 意見 2 : 生徒が幼稚園や小中学校にボランティアや英語の授業に出かけていることで、地域とのつながりもでき、素晴らしい取り組みになっている。アンケート結果をみると、保護者・生徒ともに概ね高評価であるが、先生方の意識が生徒に伝わり、それが数字に表れていると考えられる。今後、生徒が自分自身を見つめ、自己評価を行うとともに自己肯定感の醸成につながるとよいと思う。
- 意見 3 : 「日本語」の授業は、自分たちの意見が言えており、とても楽しそうであった。外国につながる生徒にとって国語の授業は難しいと思うが、チャレンジする姿がみられて、向上心があると感じた。地域貢献が増えているなか、可児市の防災訓練での翻訳作業(多言語での情報発信)で高校生に協力してもらっていて、ChatGPT を使いながら翻訳して発信してくれたが、参加した生徒の皆さんが自己肯定感を感じる機会になった。ボランティアは続けることと、繋げていくことが大切だと思う。アンケートの回答率があがってきており、学校の取り組みについて今後、保護者や地域の方々の理解が進んでいくと思う。
- 意見 4 : 通学途中で、学校に行こうか迷っている生徒を説得する様子を見て、微笑ましく感じた。一方で、登下校のマナーが悪い生徒が一部みられるのは残念に思う。
- 意見 5 : スピーチコンテストで全国大会出場する生徒が出るなど、学校の中身が高いレベルになってきている。今後、外国との交流が増えていくとなおよいと思う。丹羽公雄教授(卒業生)との座談会があったが、参加した生徒の姿からとてもやる気を感じたので、ぜひ夢に向かって努力して欲しい。タブレットを活用した授業が増えてきているが、その一方で書く力は必要であると感じた。
- 意見 6 : 授業の様子や生徒の姿勢から、生徒の皆さんが学校に来ることをとても楽しみにしているように感じた。「日本語」の授業は独自につくられた内容で、生徒の生活やコミュニケーションに直接結びつくようなテーマであったが、そこからは「愛」のようなものを感じ、日本語に強くない生徒のことを本気で考えていることが伝わり、とても温かい気持ちになった。
- 意見 7 : 「スクールミッション」や「スクールポリシー」は企業理念のようなものだと思うが、随時内側への確認をするとともに、外に発信することで、地域からの協力が得られたり、多くの気づきを与えていくことができると思う。
- 意見 8 : インターネットが繋がりにくいことについて、学習に使う道具にストレスがあるのはよくないと思うので、担当機関に要望をしていただき、タブレットの更新も含めたネット環境を整えていく必要があるだろう。
- 意見 9 : 一部ではあるが、駅周辺のマナーが悪いと聞いている。巡回や生徒への呼びかけなどで改善していくことが地域から信頼される学校につながると思う。
- 意見 10 : 就職に関わることについて、外国につながる生徒が語学を生かして就職先が拡充されていることや、大手企業にも就職しているところから、東濃高校の特色が生かされている。こうした実績が小中学校にも広がることで、東濃高校への志望動機が高まり、社会で活躍する機会があることが認識されていくことも考えられる。実績と学校での取り組みと繋がってきていると感じるので、学校が行っている活動から就職先も広げていって欲しい。
- 意見 11 : アンケートについて、多くの項目で肯定群の高止まりがみられる。満足度や学校の活動に関して、生徒は 80%以上、保護者は 90%近くが肯定的であることはとても評価できる。高止まりの中で、どの項目において、B(ややあてはまる)をA(よくあてはまる)にしていくかに注目するとともに、良いところを伸ばし、足りないところ補うことを地道に続けることが大切だと感じる。
- 意見 12 : 先生方へのアンケートも好印象であり、どんな生徒を育てるか、そのために何ができるか、について、先生方が活動された成果が現れていると思う。

意見 13：「開かれた学校づくり」という点で、赤陵祭の保護者公開や公開授業をしていただいたことに感謝している。ぜひ来年以降も続けて欲しい。

意見 14：「日本語」の授業について、難しい言語を一生懸命に学んでいる姿をみて、とても嬉しかった。去年はできなかった学校開放があって、とても嬉しく思えたので、もっと多く保護者に浸透していくとよいと感じた。

意見 15：学校長が示されている「TONO PRIDE（帰属意識）」が、生徒や先生方に浸透している姿を具体的に感じる事ができた。生徒が自分たちの学校や自分自身、仲間に誇りをこれからも育ていけば、学校はもっとよくなる。今後も、東濃高校が地域のなかで、さらに発展していけるように協力していきたい。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、学校長より、中間報告として、これまでの学校の取り組みを説明した。また次年度に向けた方針として、「2025 高校生の意識調査」の結果として、学校生活に関する生徒の満足度において肯定的な意見が多かったことに注目し、次年度以降も引き続き、生徒の可能性を信じ抜く強さと温かさを持ち、生徒や保護者、地域の方々との信頼関係を築きながら、生徒の自己肯定感と帰属意識を育て、社会に送り出していくことを学校の教育方針として示した。加えて、学校より学校評価アンケートの概要説明及び領域ごとの分析を報告させていただいたところ、委員の方から様々なご意見をいただいたので、今後の教育活動に十分に生かしていきたい。特に「スクールミッション」や「スクールポリシー」の周知という点に難しさを感じているため、様々な機会をとらえて、浸透させていくことに尽力したい。加えて周知方法についても、さまざまな意見を聞きながら検討していく。引き続き、地域とのつながりを大切にした実践を積極的に行い、高校卒業後も主体的に学ぶ姿勢を持ち続け、社会生活の中で自分の能力や可能性を最大限に伸ばし自己実現ができるような生徒の育成を目指したい。また会の中で、令和8年度に予定している創立130周年記念事業に関する説明を行った。